

一過性全失語？

脳の症状が、いきなり起きる。原因が分からないと、医者も患者さんも不安だ。

23歳のK子さん。「昨日の6時頃から2時間ほど、急に、頭がヘンになった」と言う。「もの名前、人の名前がどうもない。考えたことを言葉にできない。話そうとするとき、意味不明の言葉が出てくる。また、相手が何を話しているのか理解できない。文字が読めなくて、書いてあることも理解できなくなった」とのことだ。

家族も、「おれは、先週のロラムの一過性全健忘でも起こしたのか？」と思ったらしい。だが、Kさんは、昨夜のイベントをしっかりと記憶していて、今は何の支障もなく話すことができるのだ。認知症でも一過性全健忘でもない。一過性に起きた失語症だ。勝手に名前を付けるなら」「一過性全失語」といっていいな。

失語症というのは、多くは左側の大脳半球にある言語中枢の障害によるものだ。聞く、話す、書く、読むといったことがうまくできなくなる。言葉の通じない外国に連れてこられたような状態と思えば理解しやすい

い。診察では、手足のしびれや運動麻痺、呂律が回らないこともない。頭部MRI（磁気共鳴画像）の検査でも、脳梗塞や脳腫瘍などの異常は認められないのである。

「おれ、一過性の失語症となると、原因として考えなければならぬのは？」と、急に覚醒されたワッシーの脳もパニックである、まずは、一過性脳虚血発作、てんかん、片頭痛などの病名が浮かぶ。が、どれも、Kさんにピッタリと当てはまらない。

そつだ。原因が分からない時は、病気の経過をしっかりと診させてもらうに限る。が、説明が下手で、患者さんを過度に不安がらせること、こころの病の元になるかも。逆に、安心させすぎると、医者から遠のく。おれ、どうするワッシー？

（石黒修三iiiクリニック・脳神経

外科医：620北國新聞掲載）